

学園だより

Vol.86

2009.10
Nara Women's
University



記念館 秋景 (奈良女子大学メールマガジンより)

伝統を生かし未来につなぐ
野口誠之学長 1

創立百周年記念事業 3

教養広場 Liberal arts Forum 5

子どもとインターネット……………
中山満子

フィレンツェの空間……長田直之

寄稿 私のチャレンジ 7

杉山眞澄・衛藤聡美・石川真帆

卒業生からの寄稿 10

今も心に響く「アリラン」の歌声…
黒田貴子

大学生活で手に入れたもの……
堤理恵

佐保会だより 12

新任役員・新任部局長紹介 13

新任教員紹介 14

学生生活支援 15

広部奨学金授与式について

第47回近畿地区

国立大学体育大会結果について

学生相談室から

平成21年度

就職活動支援行事カレンダー(後期分)

授業料免除についてのお知らせ

伝統を生かし未来につなぐ

就任のごあいさつ

奈良女子大学 学長

野口 誠之



SEISHI
NOGUCHI

本年四月一日付けで奈良女子大学第十代学長を拝命致しました。重責を日々実感しておりますが、皆様方のご協力・ご支援を賜り、職務を全うする所存でありますので、何卒よろしくお願い致します。

さて、本年は、前身の奈良女子高等師範学校開校から数えて創立百周年、また、戦後の新制奈良女子大学発足から六十周年の節目の年に当たります。百年の歴史と伝統は大変重く、女性に大学進学の道が閉ざされていた時代に奈良女子高等師範学校が果たした役割の重要性、また、その役割と伝統を受け継いだ奈良女子大学の今日に至る発展は、多くの先輩諸氏、卒業生・在学生及び大学関係者の皆様の多大な努力の上に達成されたものであります。そして、高度専門職業人・研究者としての女性人材を育成し、コンスタントに社会へ輩出する拠点として、本学の役割は今後ますます重要になってきています。

社会における女性の知的自立と知的展開能力の獲得を目指し、時代状況や社会の変化に柔軟に対応し、また、社会からの要請に応えていくため、本学は、平成十二年に次の四つの基本理念を制定しました。

理念1 男女共同参画社会を

リードする人材の育成

理念2

教養教育、基礎教育の充実と専門教育の高度化

理念3

高度な基礎研究と

学際研究の追究

理念4

開かれた大学

国際交流の推進と

地域・社会への貢献

さらに、本学は右記の基本理念に基づき、次の事項を第二期中期目標期間(平成二十二年度から六年間、実質的な評価対象期間は平成二十五年度までの四年間)における「基本的な中期目標」として掲げました。

① 社会のリーダーとして男女共同

参画社会の実現に貢献し活躍する女性人材を育成するとともに、女性のライフサイクルに配慮した教育研究環境の整備、女性教員比率の向上を図り、男女共同参画社会実現の先行モデルとなる。

② 学士課程においては、体系的に

構築された専門教育、キャリア教育と教養教育により、幅広い分野で活躍できる女性人材を育成する。大学院課程においては、

高度な専門教育を行い、国際的にも活躍できる研究者・高度専門職業人として男女共同参画社会をリードし活躍する女性人材を育成する。また、教育の質の

維持・確保の観点や、人材需給の見通しの観点等から、必要に応じて入学定員や教育内容、教育組織を見直す。

③ 国際的水準の個性的、独創的な基礎研究や応用研究を推進するとともに、本学の特徴を生かした分野横断的な研究を展開する。

④ 地域に開かれた大学として、社会連携を推進するとともに、アジア諸国を中心とした国際交流を推進する。

⑤ 社会の要請や時代の変化に柔軟に対応できるよう、必要に応じて教育研究組織や業務全般の見直しを行い、効率的な組織運営を図る。

この「基本的な中期目標」に沿って、さらに細かな中期目標・中期計画が立てられています。これは、第二期中期目標期間中に実施し達成するという本学の決意表明でもあります。中期目標・中期計画(素案)全文は、本学のホームページ(Main Menu欄「大学の紹介」↓「法人情報」)に掲載されており、ご覧ください。

最後になりますが、本学は、小規模ながらも教育、研究、対外連携などを通して、国立大学としての基本的な役割をしっかりと果たし、本学に集う学生・教職員や、大学の基盤を支えてくださっている国民の皆様の期待に応えて参りたいと考えています。

創立百周年記念事業

奈良女子大学創立百周年を祝う会

奈良女子大学は、本年五月一日に、前身の奈良女子高等師範学校の開校から数えて百周年を迎えました。翌五月二日(土)には、創立百周年記念事業の一大行事として、講堂において「創立百周年を祝う会」を開催、卒業生や在学生、退職者を含む教職員を中心に「ここに集い、ここに学び、ともに歩みし百年の歴史… 百周年記念日の今、共に集いませんか!」との呼びかけのもと、約千名の方々にご参加いただきました。

総合同会は創立百周年記念行事実行委員会の野口哲子委員長が担当。同窓会である社団法人佐保会が作製したDVD『映像で見る母校百年史』の上映の後、野口誠之学長から式辞が述べられ、川崎和子佐保会理事長から祝辞をいただきました。続く学生リレースピーチ「奈良女子大学と私」大学の魅力・未来の夢を語る」は、瀬渡章子教授の司会で、文学部、理学部、生活環境学部、大学院、留学生の代表者たち(応援で登壇した学生を含めて合計六十六名)が工夫を凝らしたスピーチ等を披露しました。落ち着いた環境の下



で一生の友達を得られたと奈良女子大学の良さを語る者、実験に明け暮れている毎日を紹介する者など、友人と先生方に支えられて勉学に励む様子が活き活きと語られました。いずれも本学を愛し、学生生活を楽しんでいる様子がうかがえました。

次のシンポジウム『高度な女性人材育成の拠点形成に向けて』では、久米健次前学長がコーディネーターを務め、姫岡とし子氏(院比較文化学専攻修了)の基調講演「つなごう、ひろごう! 奈良女の力、女の元氣!」に続き、パネル討論では、各界で活躍している卒業生、中道真子氏(理学部卒)、石原康子氏(文学部卒)、北原英里子氏(院家政学専攻修了)、山崎鈴子氏(院生活環境学専攻修了)らが自身の経験に基づいてパネルディスカッションを展開、時に厳しくも同窓を鼓舞する卒業生からの提言は、在校生や卒業生のみならず、教職員にとっても爽りの多いものでした。



同会の最終プログラムは文学部の當内佐保さんと平川ちはやさんの司会、栗本智代氏(家政学部卒)による演奏と

語り「奈良女子大学ものがたり」。本学の現在までの歴史、歌手の辛島美登里氏(家政学部卒)、名誉博士第一号で文化勲章受章者故小倉遊亀画伯について、ヴァイオリンとピアノの演奏に合わせた映像と語り・歌とで紹介されました。

講堂でのイベントに続いて、生協食堂と周囲の庭園を中心に大懇親会を開催。参加者は更に増えました。鏡割に始まり、ギター・マンドリンクラブによる演奏をBGMに、生協の皆さんが腕を振った料理、学生・教員による餅つきとハーベキユー、中国留学生の手作り餃子、焼き鳥等が用意されたほか、本学と奈良県、そして今西清兵衛商店が共同開発した醸造酒「奈良の八重桜」も振る舞われました。また、夕刻以降は、重要文化財の記念館をライトアップして幻想的な姿を披露し、本学の百周年に華を添えました。



創立百周年記念式典・祝賀会

五月十六日に奈良ホテルにおいて創立百周年記念式典と祝賀会を開催しました。文部科学省から銭谷眞美事務次官、内閣府の坂東久美子男女共同参画局長、近隣の国公私立大学長、中国・韓国の国際学術交流協定大学の代表者、県選出国会議員、奈良県知事・市長など県内外政財界関係の方々を来賓として迎え、大学の歴史を築き上げてきた大学の関係者や歴代名誉教授のほか、佐保会の理事・評議員・各支部長の皆様方など約二百名の方々にご出席いただきました。

式典は学生サークル「箏曲部飛鳥会」による夢の演奏で始まり、「音楽部」による奈良女子高等師範学校校歌の斉唱の後、野口誠之学長の式辞。式辞の中で野口学長は、本学がこれまでに果た



してきた女性人材育成拠点としての役割の大きさを強調するとともに、本学が今後さらに成長・発展を目指すべく、強い決意を表明いたしました。

続いて、銭谷文部科学事務次官より文部科学大臣祝辞をご披露いただきました。また、国際学術交流協定校である南京大学から薛海林(シユエ ハイリン)副学長、同じく協定校の梨花女子大学からLan Hong (アン ホン シク)副学長によりそれぞれ祝辞をいただきました。また、京都大学の稲葉力三理事補(本学理学部卒)から、松本紘京都大学総長(本学附属高等学校卒)の祝辞をご披露いただきました。式典後の祝賀会は、野口学長の挨拶に始まり、荒井正吾奈良県知事(本学附属高等学校卒)のユーモア溢れる挨拶により会場が大いに沸いた後、国際交流協定校である蘇州大学の田暁明(ティエン ショウミン)副学長からは、季節の彩り豊かな奈良という土地柄を踏まえた趣深い挨拶をいただき、川崎佐保会理事長の乾杯の首領により和やかな歓談が繰り広げられました。

(創立百周年記念行事
実行委員会委員長 野口哲子)

その他の奈良女子大学創立百周年記念事業

- | | |
|------------------|---|
| 2008.05.01 | 奈良女子大学創立百周年記念特別講演会「よみがえる奈良文化」 |
| 2008.07.05 | 岡田節人先生のお話「生物学の名門 奈良女子大学とのお付き合い」 |
| 2008.11.09 | 講演会「正倉院の魅力 1300年の伝世美」 |
| 2008.11.10 | 講演会「歌の力」 |
| 2008.11.11 | 奈良女子大学国際交流センター招へい事業
「イギリス レスター大学 ジョアン・シャトック教授 来学講演」 |
| 2008.11.22-24 | 明治の御世に生まれ、現代さらに輝く
講演会「岡潔博士没後三十年記念講演会」
演奏会「明治製造国産グランドピアノ(百年ピアノ)特別演奏会」 アルバート・ロト氏
展示「小倉遊亀画伯と奈良女子大学」 |
| 2008.11.29 | シンポジウム「奈良女子大学における男女共同参画の歩みと展望」 |
| 2009.03.09 | デュオコンサートとトーク ヴァイオリン:五嶋みどり氏、ピアノ:オズガー・アイディン氏 |
| 2009.03.14-15 | 女子中高生のための関西科学塾2009 |
| 2009.04.04-05.24 | 特別展「託す想い、伝える心 人形展〜(社)佐保会所蔵品を中心に〜」 |
| 2009.06.06 | 公開シンポジウム「アジアの出産と介助者 -ジェンダーの視点から-」 |
| 2009.09.26 | 教育シンポジウム「奈良女子大学附属学校園から日本の教育を考える」 |

子どもインターネット

中山 満子

文学部 准教授
人間科学科 総合心理学コースMICHIKO
NAKAYAMA

「情報化社会における対人関係」という自身の研究テーマに沿って、教員免許更新講習の「コマを担当することになった。そこで改めて、最新のインターネット利用状況、とりわけ子どもをめぐる状況と問題点について考えてみた。日本のインターネット利用率は依然右肩上がりの伸びを示し、いまや国民の四人に三人はインターネットを利用しているという統計データが出ている。インターネットの整備と普及において近隣諸国に遅れをとっていた時代から国をあげて普及率上昇に躍起になり、その結果「モバイルインターネットにおいては世界最先端(平成二十一年度版情報通信白書)」となった。

モバイルインターネット。ここでは、平たく言えば携帯電話を使ったインターネット利用である。

統計データで見るとインターネットユーザの多くは、携帯とPCを併用しているということになっていくが特に若い層(子ども)の日常的な使い方を見る限り、利用頻度も依存度も圧倒的に携帯に偏っている。そしてまた、子どもの携帯利用が野放しになっていることから様々な問題点が生じていると言っても過言ではない。

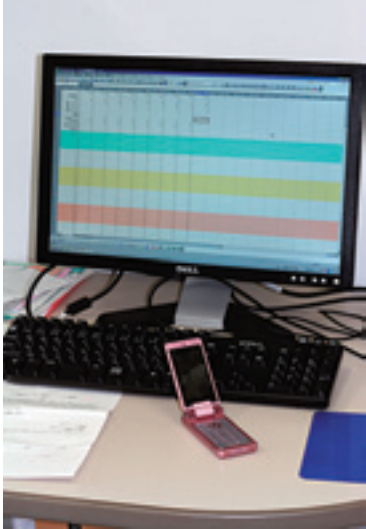
例えば出会い系サイト絡みの犯罪に巻き込まれる子ども実に九十八・六%が携帯電話を利用してアクセスしている(平成二十年警察庁調べ)。また学校裏サイトもその多くは携帯を利用したものであるし、いわゆる「ネットいじめ」でも携帯メール、携帯上のブログやブログなどが利用される。

インターネットを利用することによって誰でも情報発信が出来るようになった。携帯によってそれはさらに気軽になった(なつてしまった)。情報発信は「剣よりも強い」パワーであるのに、あまりにも無自覚・無責任にパワーを行使してしまう社会なのである。携帯を利用して子どもがこのようなパワーを行使していること、そして一方でそのパワーの前にひどく傷つけられている子どもがいることに、親はあまりに無関心なのではないだろうか。日本の親が子どもの携帯利用にほとんど何

の制約も加えていないことについては、諸外国と比較しても特徴的なことなのである(Shariff, 2008)。子どもをネット上の有害情報(出会い系、アダルト系など)から守るためのフィルタリングについてはようやく法制化され、子どもの名前で契約する場合には原則フィルタリングがかかるようになった。

フィルタリングについても親の責任でカスタマイズが可能であり、親子の合意の下でフィルタリングを厳しくしたり、解除したりすることが望まれる。一方でわが子を有害情報から守るだけではなく、自分の子どもがいじめの加害者にも被害者にも傍観者にもならないように、携帯の利用の仕方、携帯でのコミュニケーションのあり方についても、家庭で十分に話し合い、子どもからの開示を引き出す必要がある。

少し固い話になってしまったが、私自身の子どもの頃から小学生になり、様々な人との関わりに揉まれるようになった。限定的ではあるが既に家ではインターネットを利用しているし、早晚携帯電話も持たせるようになってきた。まだ私には何でも話してくれていてと信じているが、信頼しあえる親子関係・家族関係を築いていきたいと願っている。



フィレンツェの空間

長田 直之

生活環境学部 准教授
住環境学科



NAOYUKI
NAGATA

フィリップ・ブルネレスキ。僕が敬愛してやまないルネッサンスの建築家。ミケランジェロやレオナルド・ダ・ヴィンチに比べて、ブルネレスキは、その偉大な業績に比して、一般にはあまり知られていないのではないだろうか。ブルネレスキは、長い間中断していた

フィレンツェの大聖堂のクーポラ(大屋根を掛けたこと)で知られているが、他にも、遠近法の確立、文学への影響、マザッチョらの画家への影響など、マルチな才能を発揮した建築家なのである。

二〇〇二年の秋から一年間、僕は文化庁新進芸術家海外留学制度研修によってフィレンツェ大学に留学した。安藤忠雄の弟子でもある僕の専門は、現代建築(住宅)の空間デザインである。では、なぜ六百年も前のルネッサンスが研修のテーマだったのだろうか。近代建築、あるいはその後の現代建築の空間の生産的な萌芽が、ブルネレスキをとおして明確に現れたと、僕は考えた。彼以後、「透明性」についての議論を経て、「均質」空間へと近代の空間は展開していく。(同様の展開は、近代という社会構造や思想とも共鳴しあいつながら…)

内部空間と外部空間は一致しない。

そこには、壁の厚みが存在する。特に積石造を中心に発展した西欧建築では、建物の外形と、内部空間が一致することとは希で、外形と内形の間には、構造上の必要以上にポーチエと呼ばれる壁の厚い部分が存在する。

内形と外形の一致。メディチ家礼拝堂のある「サン・ロレンツォ教会」は、ブルネレスキによる設計だが、ファサードが現在もない。最初にこの建築を見た時の衝撃は計り知れないものがあった。ブルネレスキの別の建築、ロンドンダと呼ばれる建物は、現在、フィレンツェ大学の外国語センターになっているが、八角形の内部プランがそのまま、都市に放置されている。内部空間と外部空間を同じ「強度」で扱うこと。それは、オスピターレ・イノチエンティの広場を見ればさらに明確であろう。建物の内側にある中庭と、都市広場(外庭)が同じ強度を持つて扱われているために、厚い壁で隔てられ決して見えない

ふたつの庭空間)が、繋がって感じられ



サンティシマ・アヌンツィ・アータ広場
(正面にはブルネレスキ設計のオスピターレ・イノチエンティ〈捨て子養育院〉が見える)

るために、厚い壁は透明性を帯びる。物質的な境界を越え、空間は統合される。このような彼のビジョンは、良質な近代建築によってさらに発展する。

伝統と革新。建築を読むことと、建築を作ること。イタリアでの一年間は、現代が現在という時間||瞬間によってあるのではなく、長い時間の堆積と同等にあることを実感した。そして、そのような時間||空間のなかに自由を横断することが、いかに豊かな世界を生産するかを知ることが出来たように思う。

私のチャレンジ 完全燃焼を求めて

杉山 眞澄

大学院人間文化研究科 博士前期課程
人間行動科学専攻 二回生

小学校教員としての日々、五十歳を過ぎた頃から自分の中で「このままでよいのだろうか。」という疑問がわきあがっていた。これまで多数の子どもたちと出会い、一人ひとりが主役となる授業づくりに挑戦してきた結果、「子ども自らが問いをもち、対話を基にした話し合い授業」スタイルがようやく形になり始め、市内、府内での実践報告や講演、度重なる授業参観などの依頼を受けていた頃である。学外者の突然の来校でも、子どもたちはいささかの不愉快さも表すことなく(しかもおりの)自然体で授業に没頭し、自分たちのスタイルで問題解決を図り、互いに成長しあっていた。むしろ、自分たちを見てくれるんだという思いで参観者を快く迎え入れる子どもたちの姿を見てみると、私の心は大きく揺らぎ始めた。



取り組んできたわけではなかったことに気づかされた。振り返ると、今までの私は目前の子どもたちの成長を願いさまざまな創意工夫を行ってきたものの、授業論に関する研究や児童の発達過程及び発話分析の研究などに全く目を向けることなく、自分のスタイルで模索していたことに気がついた。「この『子どもが輝く授業』を広げるには、先人研究者の理論による裏づけをしなければ、現場の求めに応じられない…」と、自分を駆り立てる不思議な力が沸き上がり、冒頭の問いを強く自覚し、大学院受験を決意した。

自分の求めている問いを深め、解決していくためには児童心理の分析や心の発達研究が必要だと考えた。国立大学法人化に伴う個性ある大学システムの創造に関心があり、以前から情報を収集していたこともあって、奈良女子大学のホームページを何度か開いていた。の説明会が大阪で開催されることを知り、歴史ある大学の大学院を受験すること自体はほぼあきらめムードだったにもかかわらず、思い切って参加した。ところが、会場で研究内容や自己課題解決への思いを先生方にお話しさせていただいているうちに受験にむけての勇気が急速に沸き始めていた。

MASUMI
SUGIYAMA



教員をしながらの受験は過酷なものだった。事務手続き等の細かい配慮をしてくださった入試課の皆さん、研究を理解し応援してくださった先生方のご尽力によって晴れて合格。あのときの心情はいまだに言葉では言い尽くせない。

自分の課題を解決するにはこの大学院しかないと心に誓い入学し、慣れない心理学用語がとびかう高度な理論を理解するのに四苦八苦しながらも、車で一時間あまりかけて楽しく通学している。授業に参加するたびに自分が取り組んできた教育現場での実践を理論化するためのヒントを得ることが多く、帰りの車中では今まで燃焼し切れなかった自分の実践の理論的解明にむけた意欲が日常的にかきたてられている。今、この年齢になって学びの楽しさを実感しながら充実した日々を送っている。

私の第一歩

衛藤 聡美

大学院人間文化研究所 博士前期課程
情報科学専攻 二回生

私が奈良女子大学に編入したのは「自分が作りたいもの」を探すためでした。小さい頃から機械やからくりが好きだった私は高専に入学し、将来は「人に喜ばれるもの」を作りたいと思っていました。

そんな私に一つの問題を投げかけたのは、工場見学での先生の一言です。ほとんど全てが機械化された見学先の工場は、整然としていて大変すばらしく思えました。しかし、一人の先生からの「最新の機械が導入されたとき、元々働いていた人はどうなったのですか？」という質問にその会社の方は言葉に詰まって答えられなかったのです。

私はこのことから、技術が発展していく裏で淘汰されてしまう人・ものがある、という今まで気にしていなかったことを認識し、「人に喜ばれるもの」とは何かを真剣に考えるようになりました。そして、誰も不幸にせず「どんな人でも幸せになれるもの」を作りたいと思うようになりました。

高専卒業後の進路を決めるとき、「どんな人でも必要としている技術」はなにかを探し、最も着かれたのが地球温暖化問題に関わるものでした。「地球温暖化問題こそどんな人でも解決を必要としていることではないか」と考え、大学で深く学んでみたいと思い、温室

効果ガスの研究をしている研究室がある奈良女子大学理学部への編入を決めました。

そして奈良女子大学に入学後、希望の研究室に配属され、温室効果ガスであるメタンの研究をすることになりました。

研究を通じて先生、同じ研究室の学生、就職された先輩、研究者の方々といったたくさんの方達と出会い、様々なお話を聞くことで理解できたことがあります。それは、温室効果ガス削減に貢献するいわゆる「エコ製品」であっても、何かが生まれる時は副作用があり、「どんな人でも幸せに」はできないということ、しかし、将来人間が住みやすい環境のためには地球温暖化現象の

早急な解明と対策が必要であり、様々な分野の技術革新が不可欠であるとい



研究室のメンバー



研究所の見学

うことです。

地球温暖化説は原子力発電を推進するものとして、地球温暖化に関する研究を否定する方がいます。確かに原発はエコを売り文句にしていますが、現段階では安全性の面で多くの問題があります。しかし、だからと言って地球温暖化問題に関する研究を否定してしまっても何も良くなりません。多くの地球温暖化に関わる研究者は、このように「エコ」が利用されるといった弊害を認識しつつも「温室効果ガスの解明は人類にとって必要である」という思いを持って研究されているのです。

何か新しいことをやるということは、それが思わぬことに利用されてしまったり、今まであったものが否定されてしまったりするといったリスクを負います。100%全ての人に必要とされるものは無いでしょう。しかし私は大学生生活、研究を通して「一番大切なのは自分がどう思うかで行動するか」だと理解しました。

卒業後、私はエコ製品に関わる仕事をします。奈良女子大学での研究で得た答えを忘れず、地球温暖化問題解決へ貢献したいという思いを胸に仕事に励みたいと思います。



喜びを求めて

石川 真帆

大学院人間文化研究科 博士前期課程
生活健康・衣環境学専攻 一回生

「皆で一つのものをじっくりあげる喜び」。

これは私の原動力である。中学生の頃から吹奏楽部に所属し、皆で一つの曲やステージを成功させる喜びは存分に味わっていたはずだが、当時の私が感じていたのは「楽器を演奏する楽しさ」であり、「皆で演奏する楽しさ」ではなかったように思う。当時は気づけなかった、後者の楽しさに気づかせてくれたのは、他でもない、ここ奈良女での経験だ。

四年前、衣環境学専攻として奈良女に入学した私は、一枚のチラシを手にした。アパレル科学（現・衣環境学）専攻有志によるファッションショースタッフ募集のチラシだった。目立ちたがり屋の私はすぐさま参加を決めたが、二年間先輩のもとでショーに参加するも、私にとつてのショーの楽しさはやはり「自分で作った服を着て皆に観てもらおう」という自己満足に過ぎなかった。

三回生。いよいよ自分達がショーを運営する年になって、変化が訪れた。有志団体からサークル「Nara Collel」の設立、幹部としてのサークル活動やショーの企画・運営・開催。初めての試みや

幹部人員の少なさも相まって、思うようにいかないこ

とは尽きなかったが、先輩の協力や同期・後輩が一丸となることで、素晴らしいショーを創り上げることができた。

Nara Collel ファッションショー 2007
集合写真

今までは自分が楽しいというだけで満足していた私が、皆でつくる喜びを感じた瞬間だった。

現在私は大学院の研究の一環で、オリジナル化粧品開発に挑戦している。この挑戦の始まりである昨年度の卒業研究では、同期と協力して奈良女内でアンケート調査を行い、



自分たちで処方・試作した洗顔料

奈良女生が抱える肌の悩みをターゲットにしたオリジナル洗顔料を開発した。何度も何度も試作や実験、評価を行い、

MAHO
ISHIKAWA

沢山失敗もしたが、一年間かけて納得のいくものを完成させることができた。今年度は四回生とともに、更にはキャリアデザインゼミナールを開講することで他学部 학생にも参加してもらい、新しいオリジナル化粧品の開発を目指している。ここでもやはり、「皆で一つのものをつくる」という作業が楽しくて仕方ない。音楽、ショー、化粧品。形は違えど、全てに共通している作業。これこそが私の挑戦そのものである。

キャリアデザインゼミナールは前期のみで終了し、開発中のオリジナル化粧品の完成は間近である。しかしこれで終わりではない。かわる人が変わるうと、つくるもの・目指すものが変わるうと、「皆で一つのものをつくる」という作業に、私たちはその規模にかかわらず生活の中で必ず遭遇する。今の私にとつて最大のそれは化粧品開発や研究であるが、今後の人生においても、様々な形で常にそうした作業に臨むのだろう。「皆で一つのものをつくりあげる喜び」。この喜びを求めて、私の挑戦はこれからも続く。

Nara Collel

Nara Collel



今も心に響く「アリラン」の歌声

黒田 貴子

文学部 史学科 日本史学専攻
昭和五十二年卒業
東京都西東京市立保谷中学校教諭



TAKAKO
KURODA

「第二十五期・卒業三十周年記念同窓会」。二回生の時に出産し、みなさんにご心配をおかけし、支えられた学生時代を思い、そっと顔を出しました。卒業記念撮影に幼児を抱いていた私のことをみなさん覚えていてくださいました。同窓会の落ち着いたしっとりとした雰囲気に「ああ、私の母校はこういう学校だったんだ」と感慨深く思えたことでした。

学生時代は思い出すと赤面するほど不勉強でした。それでも、中塚明先生の御著書『近代日本と朝鮮』（三省堂）の読書会をしたり、大学で学んだことが中学校社会科教員になってからの大切な柱となっていることを感じてきました。木造校舎の研究室で中塚先生がみんなと一緒に歌ってくださいました「アリラン」は今も心の大切なところで響いています。

中塚先生には、卒業後も大変お世話になっていきます。日本の朝鮮侵略につ

いての執筆に悩んだ時、初歩的な質問に丁寧に答えて頂いたこともありました。精神的に不調となった時に頂いたメールには、涙が出るような暖かさを



中塚先生と京都にて

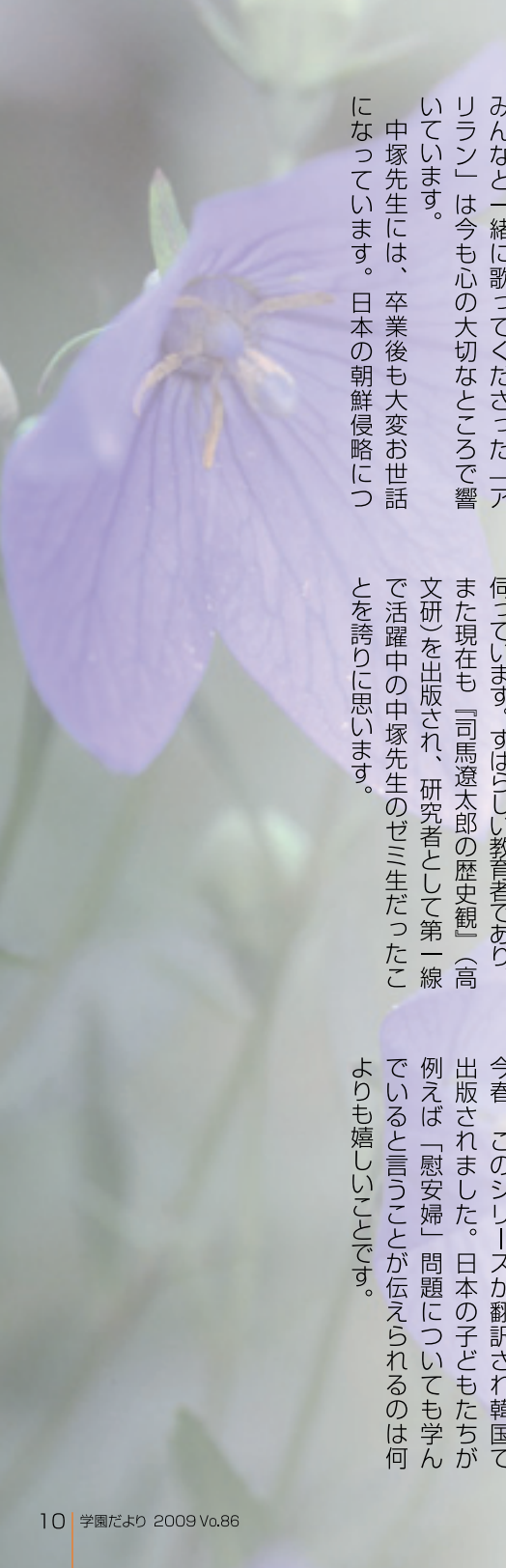
感じました。先生は、数多くの卒業生を励まされていらつしやるのでしよう。卒業生の方が奈良女の大先輩である長谷川テルについての朗読劇を行われた時も応援なさったと、そして金文字さんが御著書『朝鮮王妃殺害と日本人』（高文研）を完成されるまで励まされたとも伺っています。すばらしい教育者であり、また現在も『司馬遼太郎の歴史観』（高文研）を出版され、研究者として第一線で活躍中の中塚先生のゼミ生だったことを誇りに思います。

ゼミの同期、大谷泰子さんの薦めで歴史教育者協議会に入会したことも大きなことでした。全国大会の平和教育分科会の世話人として、各地の実践に学び、私自身も夢中で取り組んできました。そんな中で「中学生に向けての平和の絵本を作る」という取り組みに参加することが出来ました。『平和と戦争の絵本 全八巻』（大月書店）。私が担当したのは、第五巻『わたしたちは平和をめざす』。小学生から若者までのさまざまな取り組みを十六話で構成したものです。



平和と戦争の絵本

今春、このシリーズが翻訳され韓国で出版されました。日本の子どもたちが例えば「慰安婦」問題についても学んでいると言うことが伝えられるのは何よりも嬉しいことです。



大学生活で手に入れたもの

堤 理恵

大学院人間文化研究科 物理科学専攻
平成十八年修了
長崎県私立尚陽高等学校特別進学コース教諭

RIE
TSUTSUMI

私が大学を卒業してから、早くも四年という月日が過ぎようとしています。大学院時代に教員を志し、教員としての生活も四年目に入りました。いまだに周りの先生方の指導を受け、日々成長している途中です。

私が、教員をめざそうと思った理由はとても簡単で、「企業への就職」に魅力を感じなかったからです。また、様々な問題を抱えている現代の若者とまっすぐに向き合って生きていきたいと感じていました。

就職してからは、悩み、苦しむこともたくさんありました。対人の仕事ですし、相手は子どもですから、思い通りにならないことがかりでした。しかし、ふと生徒たちの笑顔をみると、この仕事について本当によかったと思っ

ています。教員になったときに、私は二つの目標を立てました。一つは、教科として、知識があり、それを伝えることができる教員になるということ。物理学という分野は注目を集めているにも関わらず、生徒には難しい分野として捉えられ、手を出すことを怖がっている生徒がほとんどというのが現状です。このこと

を少しでも解消したいというのが今現在の目標です。また、今働いている学校では「大学研究」をおこなっていて、大学での研究内容を、生徒と一緒に調べていくということをしています。いろいろな分野を見なくてはいけないので、大変ではありますが、知識を増やすといった点では、とても楽しくやりがいを感じています。私の学生時代は、大学の学部研究をするように言われたこともなく、必要もないと感じていました。

しかし、大学全入の時代が訪れ、大学が、研究内容を広く公表するようになってきた現在、生徒のモチベーションを上げるために研究内容を知ることが、重要な位置を占めています。ですから、今大学で学んだことを総復習し、新しい分野について調べている毎日です。二つ目の目標は、社会で生きていくことのできる人間を育てることです。社会で生きていくためにはまず、人とどうやって関わっていくかが重要であると考えます。アルバイトで接客業をしていたことで、人との接し方、また、その重要性を学ぶことができたと思っています。現在の高校生は、人との接し方が得意でない子が多く、EQプロ

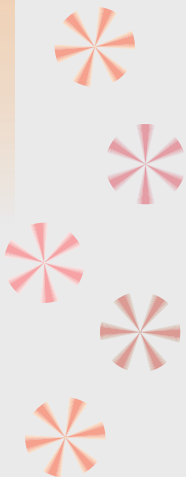
グラムなど心の授業がどうしても必要になってきます。アルバイトという小さな社会ではありましたが、自分の経験を生かすことができていると思っています。

また、現在の高校生に多いのが、すぐ逃げてしまうという生徒。私は、サークル活動で「学生ガイド」をしました。「学生ガイド」とは、英語で奈良の文化財を紹介して歩くものです。高校時代から、英語が特に苦手であったため、克服するために活動に参加しました。未だに英語が得意とは言えませんが、「苦手だから」といつて逃げなかった事実が、生徒と接するとき自分の糧となっています。

これから先、大学でおこなった研究を元に、様々な分野で活躍できる生徒を育てるために、常に学習し、知識を増やし、「伝えていきたい」と考えています。そのような考えに至ることができるようになったのも、大学時代の経験があったからだと思っています。より多くの生徒の笑顔をみるため、常に努力をしていきたいと思っています。

佐保会だより

ホームカミングデーを開催しました。



母校開校記念日の五月一日に、佐保会ではホームカミングデー「母校に集い、共に語ろう」を佐保会館において開催しました。

大学側からは学長をはじめ来賓の方々にご列席いただき、佐保会員は全国各地から、また遠くは韓国からと総勢三百名あまりの方々が参加し、母校創立百周年を祝うことができました。以下にプログラムに沿って、当日の盛会な様子的一端を紹介したいと思います。

午前の部

① 佐保会編『一筆自分史』の紹介

幅広い年齢層を網羅する二百八十四名の佐保会員からお寄せ頂きました貴重な原稿を『一筆自分史』として編集しました。当日は会員の方々それぞれが生きて来た道を振り返っての忘れ難いことも綴られた冊子が刊行されたことを紹介しました。

② アンケートから見えてくる卒業生の生き方

佐保会員の卒業後のライフコースや人生観などについてアンケート調査を実施し、千四百二十五名の方から回答を頂きました。当日はこれまでの集計結果から見えてきた卒業生の生き方に

ついて中間報告をさせて頂きました。

③ 卒業生から見た母校百周年の歩み (DVD上映)

卒業生の視点から、記録写真をもとに母校百周年の歩みをDVDに編集し、皆様にご鑑賞頂きました。主な内容は奈良女子高等師範学校・奈良女子大学の建物の変遷や授業風景、戦時下の学生生活、佐保会館の建設や大修理、佐保会の事業などから構成されています。

午後の部

④ 「みんなで楽しむコーラス教室」

午後のプログラムは、毎月佐保会館で開催している佐保塾「コーラス教室」のメンバーによるミニコンサートで始まり、懐かしい童謡の数々を一緒に口ずさんだり、講師の先生のテノール独唱やピアノ演奏を聴くなど楽しいひとときになりました。



⑤ インド舞踊の観賞 柳田紀美子さんによる百周年祝賀舞踊

最後は、インド古典舞踊家の柳田紀美子さん(昭六十二年 体卒)によるオリッシイ舞踊を鑑賞して頂きました。



した。優美且つダイナミックな動きには「生きる歓び・感謝」が表現されており、母校百年のお誕生日にふさわしい舞で会を締め括って頂きました。

「ホームカミングデー」には、長い間経つての帰宅」という意味がありますが、佐保会員の皆様には、青春の日々を共に過ごした学び舎や、寝食を共にした寮がまさに心の故郷であり、我が家でもあることを心から実感されたことと思います。

お陰様で皆様の温かいご支援のもと、「ホームカミングデー」の一日を無事終了いたしました。詳細については、佐保会のホームページをご覧ください。

(文責 中川早苗)

新任役員紹介



佐久間 春夫
HARUO SAKUMA

理事・副学長（企画・研究担当）
文学部人間科学科 教授
専攻分野（スポーツ心理学）

ふと気がついたら本学に着任して15年、大学教員としての30年の半分以上が過ぎようとしております。ひたすらより良い教育・研究環境を求め、4度目の転出でした。今のままでも良いのでは？といった現状をポジティブに、あるいは、「安住の地」としてとらえるよりも新しい分野を切り開く“チャレンジする気持ち”を、古代の奈良がそうであったように、奈良女ならば受け入れられるのでは、と思った決断でもありました。

ゼミ生には「考え、行動すること」を求めています。ただ待っているのではなく、徹底した準備を基に、勇気をもって挑み、情熱を燃やし、確固たる信念に基づく忍耐によって、一人ひとりの夢や希望が現実となるばかりでなく、科学の進歩、社会の発展が成し遂げられることを、少しでも感じ取ってもらえたらと願っています。



野口 哲子
TETSUKO NOGUCHI

理事・副学長（教育・学生支援担当）
理学部生物科学科 教授
専攻分野（細胞生物学）

記念館を入試前日に初めて正門より仰ぎ、「ここで学びたい」と思ってから41年。そして、今年の4月に副学長を拝命致しました。5月2日の「創立百周年を祝う会」は教職員と学生の底力に卒業生の愛校心が合わさって盛会となり、その喜びの中で、母校の教育・学生支援担当の副学長に就任した意味を私なりに捉えられた気がします。

男女共同参画社会の実現に向け、社会での女性の活躍が期待されている今、学生たちが「学び・考える面白さと喜び」を本学で体得してほしいと切望しています。同時に、2,800人も個性豊かな学生たちに向けた教育システム構築の難しさを実感しています。教育現場の教員・学生の意見を把握しながら、学生関係の6つの室（入試企画、教育計画、FD推進、学生生活支援、障害学生支援、就職支援）を統括し、教育・学生支援に尽力したいと思います。

新任部局長紹介

①所属学部等・職名 ②所属学科・専攻分野



理学部長
塚原 敬一
KEIICHI TSUKAHARA

①理学部：教授
②化学科
生物無機化学

野口哲子前理学部長の後任として、1年間理学部長を拝命しました。今年度は国立大学法人の第一期中期目標・中期計画の最終年度であり、第二期中期目標・中期計画を迎える重要な時期ということで、常に先を見据えた学部運営が強いられ、緊張した毎日が続いています。そんな中、学部・大学院の講義や研究室でのリサーチミーティング・セミナー等で学生さんたちと接すると、気持ちがリラックスしてきます。やはり、自分は教育者・研究者なのだと思えさせられます。

我が国での科学技術分野での女性の割合は、まだまだ少ないのが現状です。本学は女性研究者の支援のための様々な取組を行い、教育研究環境の整備に努めています。私も理学部長としてこのような責務を担いながら、皆様のお役に立てればと思っています。



生活環境学部長
清水 哲郎
TETSURO SHIMIZU

①生活環境学部：教授
②生活文化学科
消費者経済学

この4月から、はからずも生活環境学部長に就任することになりました。国立大学法人も次年度から第二期の中期目標期間に入りますが、この重要な時期に、生活環境学部長に就任したことを光栄に思っています。

21世紀は、これまでの大量生産・大量消費型社会から、持続可能な発展を目指す循環型社会への転換の時代と考えられます。このパラダイム転換の中、生活環境学部は、時代の要請に応えるとともに、21世紀型ヒューマンライフをシステマティックに究明し、循環型社会の構築と安全で豊かな生活環境を創造することに貢献しなければなりません。このような時代的要請を受けた国立大学法人で唯一の名称をもつユニークな生活環境学部により一層の発展を目指し、「本物以上の本物」をモットーに、生活環境学部長としての職責を果たしたいと思っています。



大学院人間文化研究科長
岩渕 修一
SHUICHI IWABUCHI

①理学部：教授
②物理科学科
物性基礎理論

運命のいたすから、平成15年度の博士後期課程の改組に携わって以来、大学院の管理運営、教育プログラムの担当などに携わってきました。

今年度は国立大学法人の第二期中期目標・計画を策定する年であり、来年度からこれが走り出します。女性研究者、とりわけ理系の女性研究者の活躍への期待がこれまで以上に大きくなっている昨今、女性に特化した本学大学院がどのような舵取りをして行くのか、まさに真価が問われる状況にあります。このような時期に人間文化研究科長を務めることとなり、大学院への思いは強いのですが、責任の重さを感じています。

大学院を活性化する基盤は、兎にも角にも、優れた教員と意欲的な学生の確保、そしてその両者によるオリジナリティの高い教育研究活動です。

微力ではありますが、皆様と共に頑張りたいと思っています。



附属図書館長
富崎 松代
MATSUYO TOMISAKI

①理学部：教授
②数学科
確率論

電子ジャーナル等の普及により、図書館に出向かなくても研究情報が入手できるようになりました。このため、図書館を研究目的として利用する人の割合よりも、学習目的として利用する人（即ち、学生）の割合が増加しています。

学生の活字離れの傾向は見受けられますが、図書館への関心が薄れたようには思えません。学生たちは図書館に何を求めているのか、利用者のニーズを把握し、図書館は何かができるのかを検討していきたいと思えます。

図書館を利用している学生たちの「声」を聞くために、7月から「図書館長と話そう」を始めました。隔週開催の予定ですが、詳しい日時、図書館のホームページで案内します。

学生の「声」をたくさん聞きたいと思っています。

新任教員紹介

①所属・職名 ②専攻分野 ③出身地・出身校 (学部、学科別50音順)

TERUAKI MAESHIRO 真栄城 輝明

- ①文学部人間科学科 子ども臨床学コース 教授
- ②臨床心理学
- ③沖縄県
琉球政府立知念高校
日本大学文理学部心理学科
中京大学大学院臨床心理学専攻



謹賀新秋

現在、世界には心理療法の種類が400を数えるまでになりました。その多くが欧米で生まれたものです。

我が国の心理療法家の多くがそうであるように、私も欧米の心理療法を学び、愛知県の病院にて心理臨床を実践していたのですが、日本文化から生まれた内観療法に出会って、目から鱗が落ちてしまいました。

9年前に内観発祥の地である奈良へ引越してきましたが、今年の4月、本学にご縁があって、赴任して参りました。

この国のまほろばで臨床と研究と教育に従事できることは嬉しい限りです。

SHIGEO YAMAUCHI 山内 茂雄

- ①理学部 物理科学科 教授
- ②X線天文学
- ③愛知県
愛知県立豊明高等学校
名古屋大学理学部物理学科
名古屋大学大学院理学研究科宇宙物理学専攻



奈良で宇宙の研究を

岩手大学より赴任し、新しく宇宙物理学の研究室を立ち上げました。

私は、「あすか」、「すざく」という奈良に縁のある名前を持つX線観測衛星を使って、X線でしか観ることのできない灼熱の宇宙を研究しています。

果てしなく広がる宇宙は、謎に満ちた非常に興味深い世界です。

落ち着いた雰囲気を感じられるこの奈良の地で、「宇宙の謎解き」に学生たちと一緒にじっくり取り組みたいです。

どうぞよろしく願いいたします。

AYAKO NAGAI 永井 亜矢子

- ①生活環境学部 食物栄養学科 助教
- ②臨床栄養学
- ③兵庫県
兵庫県立兵庫高等学校
岡山県立大学保健福祉学部栄養学科
岡山県立大学保健福祉学研究科栄養学専攻



奈良女子大にて

出身は兵庫県神戸市です。3月に阪神なんば線が開通し、神戸⇄奈良が一段と近くなりました。神戸・奈良の方々の方が今まで以上に行き来し、お互いの魅力を知ってもらえたらと思います。

また、奈良女子大はキャンパス内を鹿が歩いているなど、ゆったりとした自然豊かなところです。このような恵まれた環境で研究・教育に携わることができるのをうれしく思います。

これまでは病院で管理栄養士として現場経験を積んできました。

今後は研究のできる管理栄養士を育てるために、少しでもお役に立てるよう頑張っています。

どうぞよろしく願いいたします。

HIROKO MURAI 村井 紘子

- ①理学部 数学科 助教
- ②位相幾何学
- ③愛知県
愛知県立旭丘高等学校
京都大学理学部
奈良女子大学大学院人間文化研究科数学専攻
奈良女子大学大学院人間文化研究科複合現象科学専攻



母校に帰って

東京電機大学等を経て、母校である奈良女子大学に戻って参りました。

専門は位相幾何学(トポロジー)で、「やわらかい幾何学」ともいわれる新しい幾何学です。最近解決された「ポアンカレ予想」はこの分野の大問題でした。

私にとって本学の魅力は静かで思索に耽りやすいところですが、特に正門から記念館までの道をゆっくり歩いたり、少し足を延ばして中宮寺の弥勒菩薩像の前に佇むのが大好きです。

まだまだ経験は浅いですが、恵まれた環境の中、学生の皆さんと共に学んで成長していきたいと思っています。

どうぞよろしくお願い致します。

TAKASHI KAJIWARA 梶原 孝志

- ①理学部 化学科 教授
- ②錯体化学
- ③宮城県
宮城県石巻高等学校
東北大学理学部化学科
東北大学大学院理学研究科



奈良という新しい環境で

宮城県の港町石巻で生まれ育ち、学生時代から助手・助教まで20年以上を東北大学にお世話になりました。今回初めて東北を出て、奈良へ赴任いたしました。関西の文化圏、そして女子大学と、これまでとは全く異なった環境にとまどいも感じましたが、周囲の暖かいご支援もあり、少しずつ慣れてきたところです。

専門は金属錯体の固体物性に関する研究です。合成から物性測定・理論解釈まで幅広くこなさなければなりません。新しい発見を楽しみながら、学生たちと二人三脚で頑張っていきたいと思っています。

どうぞよろしく願います。

CHIHO NAKAGAWA 中川 千帆

- ①大学院人間文化研究科 比較文化学専攻 准教授
- ②アメリカ文学・英米女性文学
- ③福井県
福井県立若狭高等学校
上智大学外国語学部
東京大学総合文化研究科
アリゾナ州立大学英文学科



若狭より奈良へ

お水送りの福井県小浜市に育ったわたしにとっては、奈良はいつも身近な街でした。東京とアメリカという遠回りはしましたが、遠敷川のほとりからお香水のように奈良に辿りついたことになります。

わたしが研究するアメリカ文学には、奈良に残る古の文学のような長い歴史はありません。しかし、奈良の風土としてある過去を振り返り、歴史を大切にすることをしながら、文学作品を通して、その時代・土地に生きる人々の願望や絶望、喜びや悲しみを想像する研究活動を送りたいと考えています。

平成21年度就職活動支援行事カレンダー(後期分)

就職を希望する学生に対して、各種の就職活動支援行事を企画・実施しています。就職マニュアル本だけでは得られない知識や情報等の収集の場として、積極的に参加・活用してください。行事開催の詳細な内容や実施日時・場所に変更があった場合などは、掲示で順次通知しますので、図書館横の学生生活課の掲示板をいつも見るように心がけてください。

【就職支援対策講座】

*企業・教員・公務員等に拘わらず、就職希望者全員が受講対象です。

月・日	就職活動支援行事(対策講座名)	時間	教室	対象
10月 9日(金)	ナビ各社の説明	16:30~18:10	記念館 講堂	3回生・M1
10月13日(火)	正しい就活の情報収集	16:30~18:10	N101	3回生・M1
10月16日(金)	4回・M2生対象 特別講座	16:30~18:10	G201	4回生・M2
10月20日(火)	就活に必須のマナー	16:30~18:40	記念館 講堂	3回生・M1
10月23日(金)	筆記試験対策	16:30~18:10	N202	学部学年不問
10月27日(火)	筆記試験対策模擬テスト	16:30~18:10	N101	3回生・M1
10月30日(金)	履歴書の正しい書き方	16:30~18:10	N202	学部学年不問
11月10日(火)	エントリーシート対策Ⅰ	16:30~18:10	N101	3回生・M1
11月17日(火)	エントリーシート対策Ⅱ	16:30~18:10	N101	3回生・M1
11月20日(金)	エントリーシート対策模擬テスト【有料】	16:30~18:10	G201	3回生・M1
11月21日(土)		10:00~11:30	G201	
11月21日(土)	グループディスカッション対策	未 定	G201	3回生・M1 (県内大学合同)
他大学と調整中			G202 G203	
11月24日(火)	面接(全般)対策	16:30~19:10	記念館 講堂	3回生・M1
12月 5日(土)	模擬グループ面接	①10:00~12:00 ②14:00~16:00	G202 G203	3回生・M1
12月 8日(火)	エントリーシート対策Ⅲ	16:30~18:10	N202	3回生・M1
12月15日(火)	就活の総まとめ	16:30~18:10	N202	3回生・M1
22年 1月22日(金)	学内合同企業説明会事前研修会	16:30~18:10	N202	3回生・M1
1月30日(土)	学内合同企業説明会	13:00~17:00	記念館 講堂	3回生・M1
2月中旬 (土)予定	「関東地区就職希望者のための就職懇談会」 (同窓会 佐保会東京支部との共催)	13:00~16:00	佐保会 東京会館	2回生以上

【教員・公務員対策講座】

*教員・公務員志望者は、併せて就職支援対策講座の受講が必要です。

月・日	就職活動支援行事名(講座等名称)	時間	教室	対象
12月17日(木)	教員・公務員採用試験合格者体験報告会	16:30~18:10	E107	2回生以上
2月に実施予定 (4日間)	教員採用試験対策論文講座【有料】	未 定	未 定	3回生・M1

セミナーやガイダンスに授業で参加できなかった人は、キャリアサポートルームで、資料配付と共にビデオ撮影したものが視聴できます。後日、視聴できる時間がある時に、学生生活課就職係に申し出てください。

授業料免除についてのお知らせ

平成22年度前期分授業料免除及び徴収猶予に関する申請書類の配布及び申請受付を下記のとおり予定しています。

詳細については、2月上旬に本学ホームページ及び掲示板にてお知らせすることとしています。

申請書類配布：2月上旬～3月上旬

申請受付：3月上旬～3月中旬

広部奨学金授与式について

平成21年度広部奨学金授与式が7月23日(木)にコラボレーションセンター応接・会議室にて行われました。

広部奨学金は、本学卒業生の故広部りう殿(福井県出身 奈良女子高等師範学校本科教物理学部1期生 大正2年3月卒業)のご遺志により寄附された資金をもって設けられた奨学金制度で、各学部・研究科長より推薦された人物・学業ともに優秀な本学学生に授与するものであり、今年度は次の8人に証書及び奨学金が野口学長から贈られました。

文学部	言語文化学科	4回生	岡田 麻希
文学部	人間行動科学科	4回生	林 なつみ
理学部	数学科	3回生	大河 亜美
理学部	情報科学科	4回生	吉崎 早苗
生活環境学部	生活健康・衣環境学科	4回生	石原 奏
生活環境学部	生活文化学科	4回生	南田 佳美
人間文化研究科博士前期課程	数学専攻	2回生	渡邊百合佳
人間文化研究科博士後期課程	複合現象科学専攻	3回生	塚村 智子

第47回近畿地区 国立大学体育大会の結果について

第47回近畿地区国立大学体育大会が8月6日(木)～29日(土)に開催され、熱戦が繰り広げられました。本学は11種目に参加し、次の団体・個人が見事に入賞を果たしました。

<団体> 弓道(優勝)、水泳(第3位)、ハンドボール(第3位)、
バドミントン(第4位)、剣道(第4位)

<個人>	水泳	女子200m	個人メドレー	第2位	青木 真衣 (理・3)
		女子100m	平泳	第3位	坂本美由紀 (理・2)
		女子100m	背泳	第3位	角鹿 由佳 (文・2)
		女子200m	背泳	第3位	角鹿 由佳 (文・2)
		女子200m	個人メドレー	第3位	加藤 杏菜 (理・1)
		女子400m	リレー	第2位	
			青木 真衣 (理・3)、	清水 美樹 (文・3)	
			坂本美由紀 (理・2)、	浅田 理恵 (理・3)	
		女子200m	リレー	第3位	
			駄田井智永子 (生・2)、	清水 美樹 (文・3)	
		浦原 友香 (理・2)、	浅田 理恵 (理・3)		
	女子400m	メドレーリレー	第3位		
		角鹿 由佳 (文・2)、	加藤 杏菜 (理・1)		
		浅田 理恵 (理・3)、	坂本美由紀 (理・2)		
	陸上	女子トラックの部	800m	優勝	山田 幸 (文・2)
			400m	第2位	鶴久森知里 (生・1)

学生相談室から

●学生相談室は、あなたのマインドスペースです。

学業や進路の不安、日常生活で困ったこと、対人関係など、さまざまな心配事について一緒に考えましょう。話を聞いてもらうだけでも、落ち着くこともあります。相談室はあなたの話にじっくり耳を傾けます。そのことで解決の糸口が見つかるかもしれません。内容に応じて適切な人や機関を紹介することもできます。

●開室日及び開室時間

月曜日～金曜日 午前10時～午後5時 (夏季休業期間中は月曜と木曜のみ開室)
8月第3週と第4週、12月27日～1月5日、入学試験日(前期・後期)は閉室します。
上記以外で閉室する場合は、構内掲示板や相談室前にその旨を掲示することにより、お知らせします。
学生相談室の場所は大会館3階です。
TEL.0742-20-3925 Eメール soudan@cc.nara-wu.ac.jp

●スタッフ

■相談受付

金 文子 (月曜日・水曜日・金曜日)
岩井 涼子 (火曜日・木曜日)

■カウンセラー

皆藤 靖子 (臨床心理士)
竹村 百代 (臨床心理士)

■相談員

吉田 容子 (教員)
吉岡 英生 (教員)
原田 雅史 (教員)

